

令和5年度 第1回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和5年10月12日(木) 10時00分～11時30分			
開催場所	半田市リサイクルセンター2階 大会議室			
会議次第	1. あいさつ 2. 議事第2次環境基本計画推進状況の点検評価について 3. その他			
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡	副会長	
	委員	山田 尚登	小川 彰子	竹内 正治
		安達 典孝	牧野 純子	神戸 繁明
欠席委員 ※敬称略		森下 久子 森田 邦裕	榊原 靖 川島 祥子	
出席職員	市民経済部長	大山 仁志	環境課長	太田 敦之
	副主幹	森下 直孝	主査	山田 隆康
	主事	井戸 敏史	主事	片山 高也
次第	議 事 概 要			
	各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。			
1. あいさつ	-市民経済部長及び千頭会長あいさつ- (略)			
2. 議事	<p>議事(1)「はんだ環境パートナーシップ会議の役割」について (会長) 事務局より説明を願う。</p> <p>(事務局) 資料①をご覧ください。</p> <p>「はんだ環境パートナーシップ会議」の役割につきまして、昨年度から見直しをしております。</p> <p>昨年度までは、半田市環境基本計画に関する取り組みの評価を行い、本日資料③としておかせていただいておりますが、評価・提案書として取りまとめをし、市へ提出をしておりました。</p> <p>しかし、その一方で、環境基本計画の推進を図る実働部分の役割を担っており、よ</p>			

り一層計画の推進を図るため、計画の評価と企画・立案する立場を明確に分けることとしました。

項番（１）「はんだ環境パートナーシップ会議」、「半田市環境審議会」の整理ですが、要綱に基づき設置された「はんだ環境パートナーシップ会議」と、条例に基づき設置された、「半田市環境審議会」の二つの組織が存在します。

この二つの組織で評価と企画・立案の役割を整理することとしております。

①「はんだ環境パートナーシップ会議」ですが、半田環境パートナーシップ会議設置要綱により設置され、市民、事業所、行政が中心に組織された会議となります。本日の委員メンバーも市民、事業所、行政の代表として、日ごろから環境にかかわることに携わる方にお集まりいただいております。

①の「はんだ環境パートナーシップ会議」が今後の半田市基本計画の企画・立案に携わることとなります。

一方、②「半田市環境審議会」ですが、半田市環境審議会条例に基づき設置され、市民、事業所、行政も委員にありますが、学識経験者中心で組織された会となります。これまでも、公害等がおこりますと、環境審議会では対応を検討してきましたが、近年公害もほとんどなくなっていることもあり、環境基本計画の評価を担うことといたしました。

今後、「はんだ環境パートナーシップ会議」が計画の企画・立案を、「半田市環境審議会」が評価・提案を行うこととなります。

（２）第２次半田市環境基本計画の推進体制を図としてまとめております。計画の実行は、パートナーシップ会議のほか行政や広域連携組織が担い、計画に取り組んでまいります。

毎年、成果について評価を行い、進捗管理を「半田市環境審議会」が担っていく形となります。

事務局の説明は以上です。

（会長）

事務局作成資料においては、PDCA サイクルの中で、環境審議会が C（チェック）

の役割を担うことになっており、P・D・A についてはパートナーシップ会議等がそれぞれ行うこととしている。しかしながら、環境基本計画を改定するときには、P（プラン）の役割を環境審議会が担うため、P の役割が審議会にもあるように資料を改めるべきではないか。

また、要綱ではパートナーシップ会議の定員は 20 名となっている。現状では空きがあるので、適任者がいるのであれば、来年度以降メンバーを加えることも検討したい。

（委員）

企画立案という役割であることを考えると、我々よりももう少し若い人たちをメンバーに入れるということも検討してほしい。

（委員）

基本計画が大変立派で驚いている。この計画は定期的に見直しをされるのか。それとも具体的なアクションや計画が上乘せされていくものか。

（事務局）

環境基本計画の上位計画として、半田市の総合計画が位置付けられています。10 年間で実施していく計画であります。5 年経過したタイミングで中間見直しを図る予定をしています。中間見直しの時期は、令和 7 年度を予定しています。

（会長）

民間の計画とは異なり、計画の中にお金が絡んでいないという点は驚かれる部分かと思う。実際のアクションについては、随時企画し、実行していくことになる。

計画策定時にも様々な意見をお聞きしているが、実施するには様々な方の協力が無ければ進まない。

（委員）

環境保全の活動は、重要だが地味な活動である。PDCA の中でも C（チェック）が非常に重要。これまで年度評価をパートナーシップ会議で行っていたが、今後はどのように変わるのか。

（事務局）

評価は環境審議会で行うこととします。評価の中でいただいた意見は市役所の中で

も共有し、改善に向けた検討をしていく。

(委員)

今回配付された資料に、今年度審議会で評価したものはあるか。

(事務局)

申し訳ありませんが、まだ取りまとめが完了しておりません。今後は、年間のスケジュールを年度当初に決定し、計画的に PDCA を回せるようにしたいと考えています。

(会長)

議題 1 については以上で終了とする。

次に議題 2「環境保全ポスターコンクールの選考について」事務局から説明を願う。

(事務局)

環境保全ポスターコンクールの選考についてご説明させていただきます。

今回のポスターコンクールでは、テーマは「ゼロカーボン社会へ向けて」として、7月14日から9月15日までの間、募集しました。

変更点につきましては、先生たちの負担軽減から、これまでの学校への提出ではなく、学校へは周知のみを依頼し、直接環境課へのポスター提出へ変更しました。また、学校ではポスターを宿題にすることをやめたことも大きな変更点です。

応募総数は5点で、小学生1点、中学生4点です。

去年は、応募総数が128点でした。

規格外及び横書きのものを忍びないですが、除外しますと、審査総数は4点で、小学生1点、中学生3点です)。

この中から最優秀賞の小学生の部1点、中学生の部1点、優秀賞9点を選んでいただくことがありますが、応募総数が入選数よりも少ないため、該当者なしの場合もございます。

委員のみなさまには、作品をご覧いただいたのち、挙手にて選考をお願いしたいと思います。一人1回挙手をしていただき、一番多い作品を最優秀賞とし、続いて多い順に優秀賞とします。

なお、同数の場合は決選投票をいたします。

説明は以上です。

(委員)

ポスターを描かせることは、学校における環境活動の中でも大切なことの一つ。ポスターを制作する過程で環境について考えることができると思う。昨年度に比べて応募総数が減っていることについて、どう分析しているか。

(事務局)

これまでは夏休みの宿題として、学校での取りまとめをお願いしていましたが、学校側の負担軽減を目的に、今年度からは周知のみをお願いしました。そのため、提出を直接環境課へ行っていただく必要がありました。提出のハードルが高かったことも応募数の減少に繋がったものと考えています。

今後はポスターに限らず、環境について考えていただける何らかの方法を検討していきたいと思います。

(会長)

それでは審査に移る。まずは優秀作品を選定した上で、来年度以降の方法について議論したい。

(出席委員による審査)

審査結果：最優秀賞 中学生の部 1 作品、小学生の部 1 作品
優秀賞 1 作品

(会長)

委員から問題提起いただいたので、来年度以降どのように実施していくかを議論したい。実施方法についてアイデアを出していただきたい。

(委員)

環境課へ直接持ってくることに高いハードルがあるのではないかと思う。平日の日中に小学生だけで提出に訪れるのは少し難しいように感じる。休日はそもそも環境課が開いていないので、提出のしやすさということを中心に考えてみてはどうか。

学校の負担は軽減できるが、その分環境課の負担が増えてもいけないと思う。提出のしやすさ、提出場所、提出方法について考えたい。

(委員)

身近な施設ということで、公民館で受け付けてもらうのはどうか。

(委員)

そもそもポスターの取りまとめが無くなったことで、学校の先生の負担はそこまで減るものなのか。

(事務局)

提出物の整理など様々な業務を見直し、教員の業務負担を軽減することを目的にしていると聞いている。

(委員)

ポスターの提出という取り組みを残したいということであれば、どこか居場所を作り、その場で描いてもらうという取り組みを、子どもの居場所づくりの一環として実施してみてもどうか。ワークショップ形式で実施するのはどうか。

(委員)

地域のスーパーとタイアップし、ポスターを描くとお菓子がもらえるという企画は面白いと思う。母の日や父の日など、似顔絵を募集する取り組みを実施しているスーパーもある。

(委員)

夏休みに神戸公民館で見守り事業としてサマースクールを実施している。最終日には大物の宿題（工作やポスター）を持ってきて良いことにしている。親の負担軽減にも繋がるので、良い取り組みだと思う。

(会長)

私のゼミで行った取り組みを紹介したい。岩倉市の児童館の活動で、小学4年生から6年生までの20名でSDGsに関連したカルタを制作した。結果的に20枚以上集まり、良い作品が非常に多かった。

児童クラブなどの取り組みとして実施できることがあるかもしれないと感じた。

(委員)

宿題支援の一環として実施してみても良いのではないか。

(委員)

行政として環境学習の指標を設けているが、どのようなことを行っているか。

(事務局)

例年通りではあるが、自然観察会や出前講座を実施している。

(会長)

児童クラブや子ども教室などにポスターを描いてもらう企画をお願いすることは可能か。

(事務局)

検討の余地はあると思います。

(委員)

フードロス削減に関連して、余った防災食を参加賞として渡すなど考えてみてはどうか。ポスターではなく、親子でのエコ活動を写真に撮って投稿するなど、シティプロモーションにも活用できる形で実施できると、様々な効果が得られるのではないか。

(委員)

環境について考える上では、ポスターより標語のほうが良いのではないか。標語を作ろうとすると、何が問題かを理解する必要がある。ポスターはイメージで描けるかもしれないが、理解なく標語を書くのは難しいと思う。自分で考えることによって、環境問題がもう少し身近になるのではないか。取り組みやすく、提出もしやすいという点も良い。

写真を撮って投稿する取り組みも、環境問題に関連するように道筋をつけてあげることでも集まりやすくなるのではないか。

(委員)

私自身絵を描くのが苦手ということもあるが、言葉を考える方が取り掛かりやすいかもしれない。

(委員)

自然観察会でも実施後にアンケートを取っている。アンケートに最低一つは標語を書

いてもらうよう出発前に説明をしておけば、それなりの数が集まるのではないか。

(会長)

児童館での取り組みは高学年だけでなく低学年も頑張ってくれた。

その他の取り組みとして、知多メディアスと番組づくりを行った。学生が環境問題に関連した取組に 1 か月間取り組むことを宣言し、事前に決めたハッシュタグを付けてインスタグラムに投稿していく企画をメディアスの番組にいただいた。

標語の取組も面白いものがあり、名古屋市の中学校でカルタ作りを実施した際には 240 程集まった。現在は絞り込みの作業を生徒会が行っている。

標語やカルタは意外と良い作品が集まる印象がある。

少し検討してみて、次回の会議では実施できそうなものを事務局が再提案してもらいたい。

(会長)

議題 2 については以上とする。

次に議題 3「半田市の環境について」に入りたいと思うが、新しく委員となられている方もいるので、事務局から補足説明を願う。

本日は、テーマについて持ち寄っていただいたと思うが、テーマが決まったら、本日も時間の許す限り議論し、次回も議論をしていきたいと思う。

(事務局)

議題 1 でも説明がありましたが、このはんだ環境パートナーシップ会議は環境基本計画の企画・提案する役割を担っております。

また、今年 3 月に行われた会議の中でも、委員の皆様からテーマを持ち寄り、議論することでまとまっております。

この会議には様々な方面で活躍される委員の皆様がお集まりになられております。そこで、特定のテーマについて議論することで、いいアイデアが生まれ、新たな取り組みができないかという流れで、議題 3 として半田市の環境についてとしております。

議論というよりは、座談会的にざっくばらんに意見を出し合いながら、何か会議として提案できることがあればという思いで新たな取り組みとして取り入れております。

事務局からの説明は以上です。

(会長)

半田市の環境を良くするために何をしていくかを考えたい。特定のテーマを決めて議論することで、新たな取り組みに繋がることを期待している。議論というよりは座談会のように、この会議の中で話題を集めたいと思う。今日の会議だけで完結するとは思っておらず、テーマによってスパンは様々だと考えている。

(委員)

重要なのは市民一人あたりの CO2 排出量である。結果を見ながら議論することが重要。

ごみの有料化でごみ量は減っているが、愛知県内で見ると半田市はどの程度の位置にいるか。ゆめグリーンになって CO2 排出量が下がっていると思うがいかがか。

(会長)

他に気になるテーマなどあるか。

(委員)

一番気になるのは矢勝川であるが、次に気になるのはバイオガスの発電施設である。し尿をメタン発酵してエネルギーを作り、隣では植物工場でトマト栽培をしているというのは、環境行政として非常に尖った施策だと思う。消化液が肥料として使われているのか、建設費にも多額の経費がかかったと推測できるが、コストパフォーマンス的にはどうなのか知りたいところである。

順調に進んでいるのであれば見学会を開き、勉強のために伺うというのは効果的だと思う。

メタン発酵は管理が非常に難しく、なかなかうまくいかないのではと考えていたが、もっと市民に公開して良いのではないか。

(会長)

実は半田市内ではかなりの量の再生可能エネルギーが生まれている。そのあたり少しご紹介いただきたい。

(委員)

我々の施設では約 15 万世帯分の電力を発電している。木質バイオマスの調達課題である。県内の木材を使って発電した電力を県内に供給することが理想であるが、現状では輸入に頼っている状況。

以前は小中学校の先生向けに見学会を開いていた。プラントには機械もあり、多くのトラックが出入りしていることから大人数での受け入れは難しいと思う。年齢にもよるが、やり方次第で見学会を開催することは可能と考えている。

(会長)

見せ方の工夫ではあるが、半田市内にもそういった施設があるということを見せていく必要があるのではないか。市内での取り組みを紹介することは大変重要。新しい形のシティプロモーションができるのではないか。

(委員)

環境基本計画は、大きな意味で環境すべてをカバーする印象である。総合計画もそうだと思うが、魅力を最大化するということが必要だと思う。対外的にアピールする上では、何らかのイベントなどで PR することも必要ではないか。先日行われた SDGs AICHI EXPO のようなイベントに出店するかは別として、そうしたアピール活動にも対応していただくと良いと思う。

(会長)

半田市は PR をもう少し工夫できると良い印象がある。大府市はマスコミへの情報提供を上手に行っている。企画課の担当が週に 1 度話題を聞いて回っていると伺った。

(委員)

全体のストーリーとして PR する、全体が繋がっているという魅せ方が必要なのではないか。

(委員)

矢勝川のことは市民として何か行動を起こせないか。彼岸花があるが、それに見合った水質になっているかというところがある。環境審議会においても、水質が悪いということを知らなかったという意見があった。

(委員)

酪農家が多いなど、そういった影響もあるのではないか。酪農家自体減っている。大矢知の方でもたくさん居た酪農家が 20 年ほど前から減ってきている印象がある。大

きくやっているところしか残っていない。それにより環境が変化していくということもあるかもしれない。

(市民経済部長)

農家さんとは協働で様々なことを実施しているところだが、阿久比町との境ということもあり、矢勝川の水質改善は難しい状況である。

(委員)

畜産臭気の問題はどうか。

(事務局)

畜産農家など、各所が連携してやれることを増やしている。

(会長)

現在もコーヒー粕を混ぜる取り組みは実施しているか。

(市民経済部長)

現在も実施している。臭気が減っているのは事実であるが、臭いが無くなったわけではないので、難しいところである。

(会長)

社会実験のような取り組みが実施できると良い。そのような場にしていきたい。

(委員)

リサイクルセンターは、会議室だけでなく、設備、緑地、空きスペースもあり、焼却炉も価値として残っている。活用方法を検討してみてはどうか。大変価値があるものと考えている。この場でアイデアを出すなど、検討できると良いと思う。

(委員)

先日ビオぐるファクトリーを見学させていただいたが、子どもたちだけでなく、保護者からも多くの質問が出ており、興味があることがわかった。自分たちに何ができるか考えることに繋げていきたいと感じた。

この施設についても、一般市民が使える、学べるような施設にしてもらえると嬉しい。

(会長)

こういった議論を行っていきたいと思うので、委員の皆様からも引き続き提案いただきたい。それでは、事務局にお返りする。

(事務局)

議事録を作成するので、内容の確認をお願いします。

ご確認いただいた上で、市ホームページへ掲載させていただきます。

次回会議は12月頃を予定しています。事務局からは以上です。

(会長)

これにて会議終了。